

# 令和3（2021）年度自己評価

－今年度の重点目標について－

評価の基準：A－大変良くできた	B－よくできた	C－やや不十分	D－不十分
-----------------	---------	---------	-------

## 1 魅力ある授業・わかる授業を通して、生徒自らが意欲的に学ぼうとする集団づくりに努めるとともに、家庭学習や自主学習の習慣化を図り確かな学力を身につけさせる **【評価B】**

アンケートの結果から90%以上の生徒が、授業がわかりやすく、自分自身も意欲的に取り組んでいると回答している。その一方で、11月に実施したスタディサプリの学習習慣アンケートの結果、平日学習時間の平均が第1学年で41分、第2学年で20分、休日の学習時間が第1学年で1時間4分、第2学年で35分であった。

学年があがると学習時間が減少している状況であり、また大半の生徒の平日学習時間が30分未満の状況を改善できていなかった。具体的な対策内容を各教科学科に委ねてしまった状態であり、全体として有効な方策を打ち出すことができていなかった。自ら学ぶ習慣を定着させることが大きな課題である。

## 2 生徒一人一人に部活動や各種活動、資格取得等への積極的な取組を促すことで、自分の適性や個性、興味関心等の自己理解を深めさせるとともに、計画的な進路指導、個に応じた進路指導を展開し、希望進路の実現を図る。 **【評価A】**

今年度は部活動や各種活動も徐々に開催され、生徒たちの活躍が多く見られた。その中でも、農業クラブ全国大会農業鑑定競技会において日頃の学習の成果を発揮し、最優秀賞をいただくことができた。また、資格取得に関しても、国家資格である運行管理者や測量士補の合格など着実に成果をあげることができた。このような取組を通して、生徒たちの自己理解の深化、進路意識の向上や自主学習の定着につなげていきたい。

3年生の卒業後の進路決定については、まだ100%には達していないが、未確定の生徒についてもその活動をしっかりと継続しており諦めない進路実現が実践できている。その背景には担任、学科、進路部との連携により各生徒の状況を常に把握できた状態で動くことができたことが挙げられる。学科のバックアップ体制もあり生徒の出口の保証ができた。また、国公立大の新たな開拓ができ、専門高校枠として積極的にチャレンジする価値があると感じている。看護医療系と公務員については早期からの対策が課題である。

## 3 ICTを活用したオンライン授業、動画活用、課題の電子配信等について具体的な取組を推進することにより、社会状況の変化に柔軟に対応し生徒の学びを保証する。 **【評価B】**

オンライン授業の実施までには及ばなかったが、実施に向けての設備・環境の確認等については、十分に取り組むことができた。Teamsを活用し朝の打合せやSHR、Formsを使つてのアンケートなどを実施できたことは前進である。ばらつきはあるが、各学科や各教員・担任によっては、課題やアンケートなどで活用されている。研修会についても複数回実施することができた。今後も引き続き実施し、多くの先生が活用できるようにしていきたい。Wi-Fiの通信環境や使用できる場所について、今後改善されていくともっと活用しやすくなる。オンライン授業の実施については、情報管理部だけで対応することは難しく、学校全体として検討・対応を考えていかなければならない。

- 4 「白楊三訓」（挨拶励行・時間厳守・整理整頓）を生活指導の基盤として、人権に配慮した公平な指導を行うことにより生徒一人一人の人格の形成を図るとともに、生徒間の相互理解を深め、協同体意識を高め、いじめのない人間関係づくりを行う。 **【評価B】**

今年度のアンケート結果から人権に配慮した公平な指導については概ね高評価を得られたが、不十分であると回答している生徒がいることを真摯に受け止め、教職員の人権意識のさらなる向上を図ってきたい。

今年度は、生徒、保護者、関係職員も積極的にスクールカウンセラーの活用ができた。また、Q-Uテストの実施と結果分析講習会やアサーショントレーニングの講習会も開催できた。分析結果やトレーニングの内容を生徒指導に活用することで、生徒たちのコミュニケーション能力の向上にもつなげていきたい。

- 5 本校の特色や魅力を効果的に発信するための広報活動（公開授業やホームページの更新）の充実を図り、中学生や保護者等の理解を深めることで、学ぶ意欲の高い生徒の募集につなげる。 **【評価B】**

専門学校と連携して学校紹介のリーフレットを作成した。生徒会が主体となって動き、生徒目線の広報活動ができたことは大きな効果があった。「学びたいが学べる」というキャッチコピーが生徒から生まれたことは、日頃からの授業や活動が生徒たちにとって意義深いものになっていることの表れではないかと考える。今年度の一日体験や中学校訪問で配付することができ、さらなるPRにつながる効果的な発信ができたと感じている。今後は、中学生や保護者に総合選択制専門高校の魅力がより伝わるように、ホームページの内容の充実を図っていく。

- 6 科間の連携を図り、校外活動や課題研究において協働的な取組を推進することで、教職員のさらなる資質・能力が発揮され、生徒たちにとって魅力ある活動が提供できる教育環境を整える。 **【評価B】**

農業経営科のトマトと県産米粉を使用した商品開発、宇都宮市で生産されている「宮レモン」を活用したパンを流通経済科と共同開発に取り組んだ。流経科との連携においては「宮レモンパン」を完成・販売することができた。農業アクション大賞にも認定されたので、継続研究を進める。